

2020年度第2四半期 決算説明資料



2020年11月6日

M MITSUI E&S

三井E&Sホールディングス

■ 2020年度 第2四半期 決算説明	頁
➤ 概要	3
➤ 2020年度 第2四半期 決算概要	4
➤ 2020年度 第2四半期 連結貸借対照表の概要	5
➤ 2020年度 第2四半期 連結キャッシュ・フローの概要	6
➤ 2020年度 第2四半期 セグメント別決算概要	7-12
➤ 海外大型石炭火力発電所土木建築工事について	13-14
■ 2020年度 見通し	
➤ 2020年度 連結業績通期見通し	15
➤ 2020年度 セグメント別業績通期見通し	16-17
■ 参考資料	
➤ 設備投資・減価償却費・研究開発費・従業員数	18
➤ 新造船・船用ディーゼル機関の状況	19

2020年度 第2四半期 決算概要

◆ 受注高	3,128 億円	(前年同期比 ↓)
◆ 売上高	3,242 億円	(前年同期比 ↓)
◆ 経常利益	▲79 億円	(前年同期比 ↑)

2020年度 見通し

◆ 受注高	5,500~7,500 億円	(前回発表見通し比 →)
◆ 売上高	6,300 億円	(前回発表見通し比 →)
◆ 経常利益	▲70 億円	(前回発表見通し比 →)

トピック

- ◆ インドネシア石炭火力発電所土木建築工事は、
工事を再開し、現在鋭意遂行中

(単位：億円)

	19年度 2Q	20年度 2Q	増減
受注高	4,950	3,128	▲1,822
売上高	3,569	3,242	▲326
営業利益	▲677	▲92	+585
(営業利益率)	(▲19.0%)	(▲2.8%)	-
経常利益	▲649	▲79	+570
(経常利益率)	(▲18.2%)	(▲2.4%)	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲665	▲41	+624

<期中平均為替レート>

USD	107.78円	107.40円
-----	---------	---------

■ 受注高

前年度はモデックによる大型FPSO案件の受注があったが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年同期に比べて減少した。

■ 売上高

船用ディーゼル機関の客先都合による納期変更や昭和飛行機工業株式の売却などにより、前年同期に比べて減収となった。

■ 経常利益

モデックが新型コロナウイルス感染症の影響による追加コストを計上したものの、インドネシア石炭火力発電所土木建築工事のコストが、前年度迄に計上した受注工事損失引当金の範囲内に収まったことから、前年同期に比べ大幅な改善となった。

2020年度第2四半期 連結貸借対照表の概要

(単位：億円)

	19年度 4Q	20年度 2Q	増減	
資産合計	8,404	8,069	▲335	
(現金預金)	1,184	1,189	+5	
(売上債権)	2,824	2,631	▲193	主に工事進捗による回収
(有形・無形固定資産)	1,878	1,674	▲204	主に千葉工場用地の売却に伴う減少
負債合計	7,350	7,228	▲123	
(前受金)	840	1,039	+199	
(受注工事損失引当金)	985	881	▲104	
(有利子負債)	1,739	1,695	▲44	
純資産合計	1,054	841	▲213	主に非支配株主持分の減少
(自己資本)	644	527	▲117	
自己資本比率	7.7%	6.5%		
D/Eレシオ	2.7倍	3.2倍		

(単位：億円)

	19年度 2Q	20年度 2Q	増減	
営業CF	▲198	49	+247	主にモデックの前受金が増えた事による増加
投資CF	370	73	▲297	前年度にモデックにおいてSPC向け建造工事資金貸付の大きな回収があった事による減少
フリーCF	172	122	▲50	
財務CF	▲32	▲58	▲26	

2020年度第2四半期 セグメント別決算概要

(単位：億円)

	受注高			売上高		
	19年度 2Q	20年度 2Q	増減	19年度 2Q	20年度 2Q	増減
船舶	270	262	▲8	527	431	▲95
海洋 開発	3,345	1,677	▲1,669	1,486	1,565	+79
機械	749	644	▲105	812	701	▲111
エンジニア リング	240	165	▲74	251	189	▲62
その他	346	380	+34	493	356	▲137
合計	4,950	3,128	▲1,822	3,569	3,242	▲326

2020年度第2四半期 セグメント別決算概要

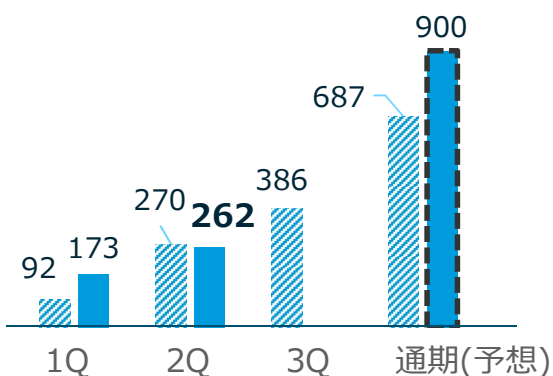
(単位：億円)

	営業利益			経常利益		
	19年度 2Q	20年度 2Q	増減	19年度 2Q	20年度 2Q	増減
船舶	▲18	▲11	+7	▲19	4	+23
海洋 開発	▲23	▲121	▲98	14	▲97	▲111
機械	43	38	▲6	45	38	▲7
エンジニア リング	▲710	▲1	+709	▲713	▲2	+711
その他	32	4	▲28	24	▲21	▲46
合計	▲677	▲92	+585	▲649	▲79	+570

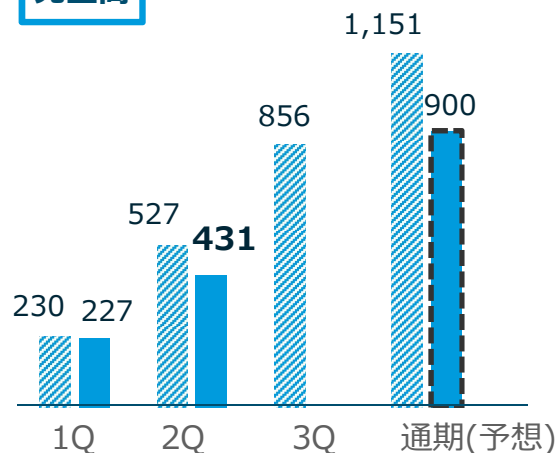
■ 2019年度 ■ 2020年度

(単位：億円)

受注高



売上高



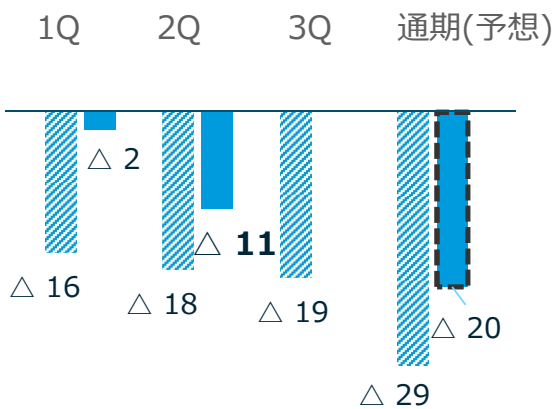
■ **受注高**：前年同期比 ▲8億円

グループ全体では、ばら積船や漁船等を受注しているが、三井E&S造船においては協業建造を視野に入れて一般商船の受注活動を展開するも、新造船受注は艦船・官公庁船分野での1隻のみとなった。

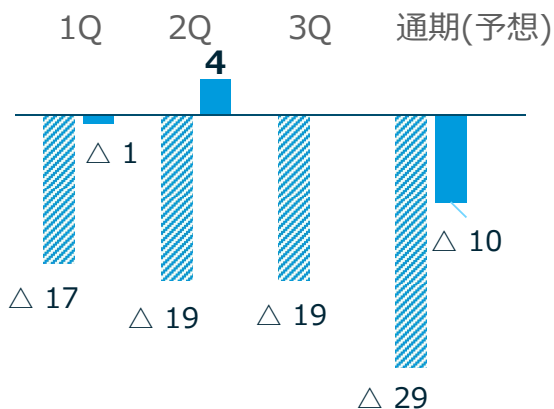
■ **売上高**：前年同期比 ▲95億円

千葉工場における造船事業からの撤退に伴う工事量の減少により、前年同期に比べて減収となった。

営業利益



経常利益



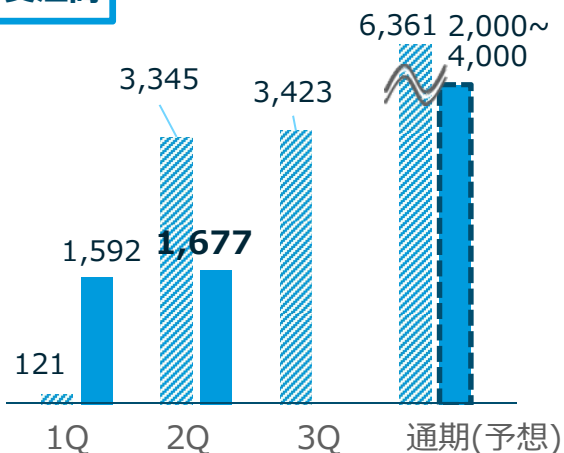
■ **経常利益**：前年同期比 +23億円

為替は円高で推移したが、揚子江船業との合併会社（YAMIC）を持分法適用会社とした事などにより、前年同期に比べて改善した。

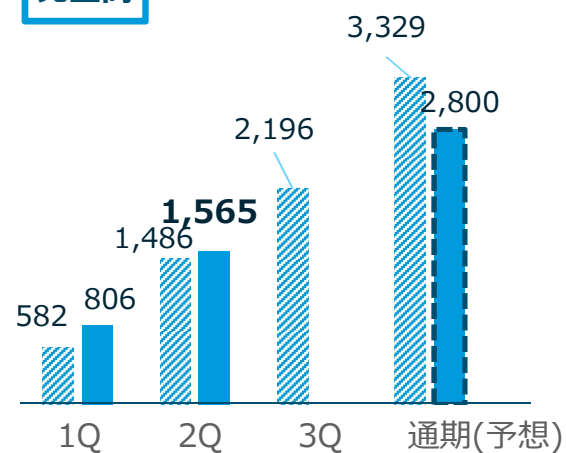
■ 2019年度 ■ 2020年度

(単位：億円)

受注高



売上高



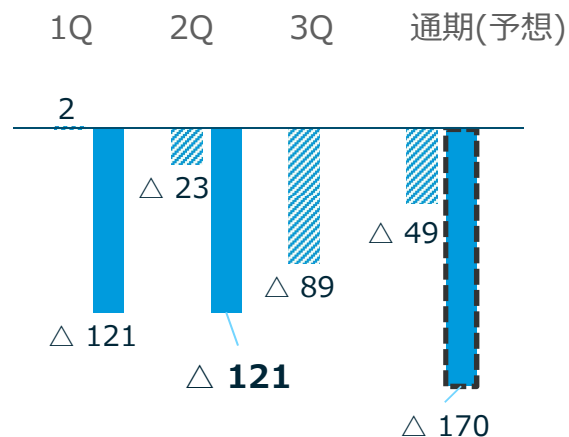
■ **受注高**：前年同期比 ▲1,669億円

FPSO案件2件を受注したが、前年度は大型FPSO案件の受注があった事により、前年同期に比べて減少となった。

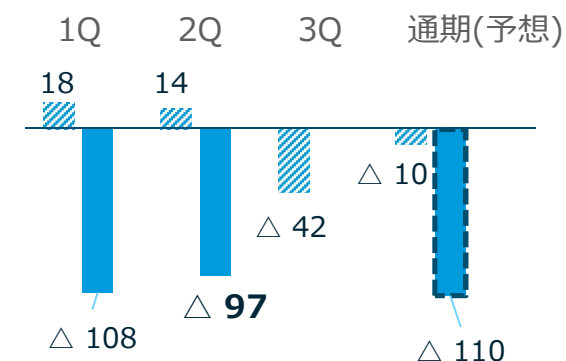
■ **売上高**：前年同期比 +79億円

6隻のFPSO建造工事の進捗などにより、前年同期に比べて増収となった。

営業利益



経常利益



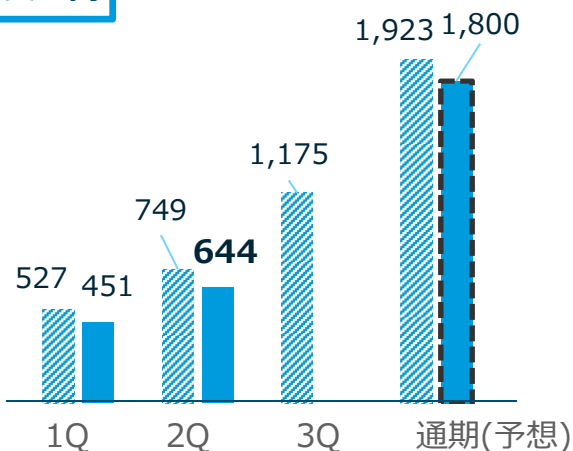
■ **経常利益**：前年同期比 ▲111億円

新型コロナウイルス感染症の影響により予想される追加コストを第1四半期に織り込んだ事により、前年同期に比べて減益となった。

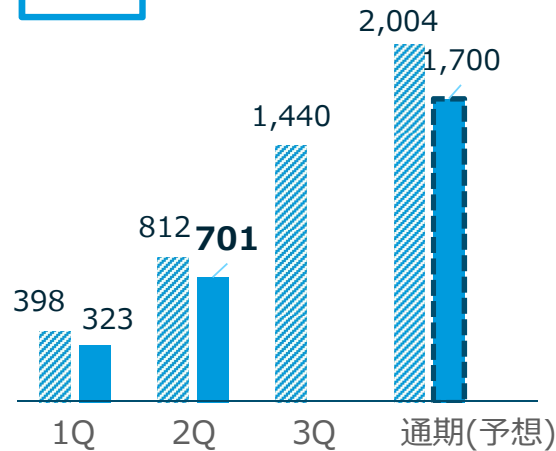
■ 2019年度 ■ 2020年度

(単位：億円)

受注高



売上高



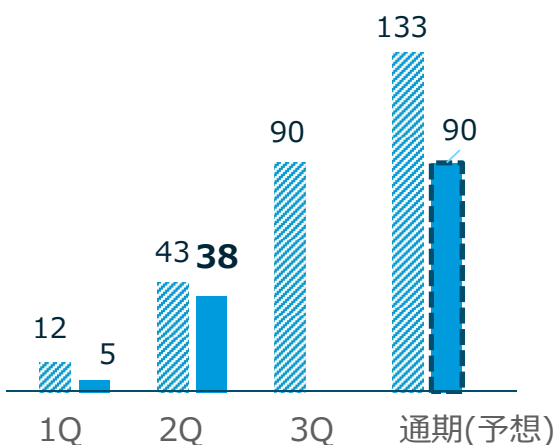
■ **受注高**：前年同期比 ▲105億円

新型コロナウイルス感染症の影響により、客先による案件の延期が散見され、前年同期に比べて減少した。

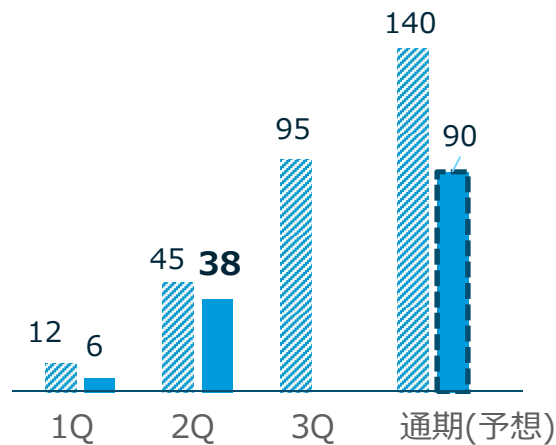
■ **売上高**：前年同期比 ▲111億円

アフターサービスは好調に推移したが、船用ディーゼル機関において客先都合による納期の後ろ倒しがあった事などにより、前年同期に比べて減収となった。

営業利益



経常利益



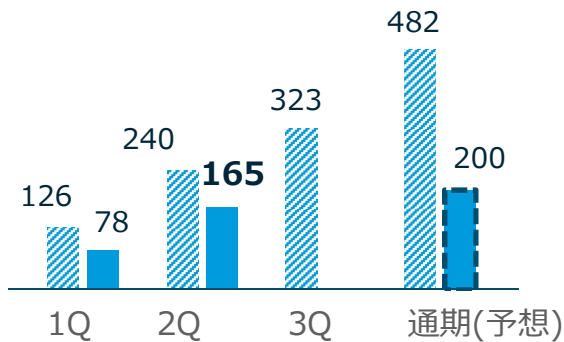
■ **経常利益**：前年同期比 ▲7億円

アフターサービスは健闘しているが、船用ディーゼル機関は海運市況の低迷を受けて厳しい状況が継続しており、前年同期に比べて減益となった。

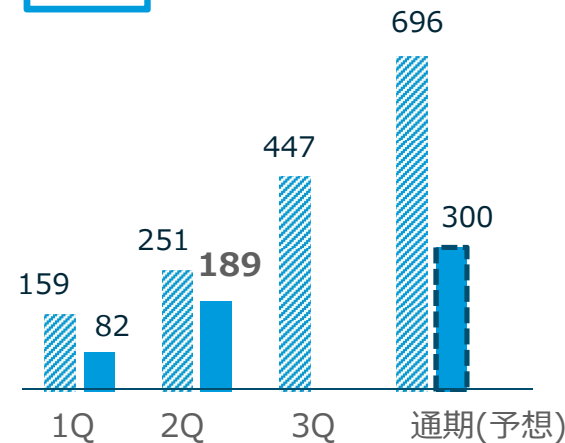
■ 2019年度 ■ 2020年度

(単位：億円)

受注高



売上高



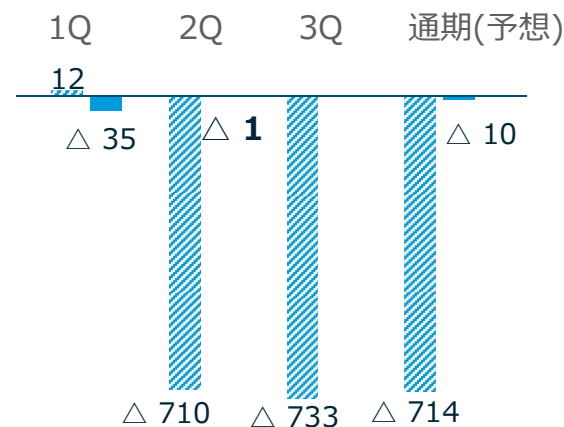
■ **受注高**：前年同期比 ▲74億円

環境事業分野では前年同期を上回る水準で推移しているが、前年度末に三井E&Sプラントエンジニアリング株式を売却した事により、前年同期に比べて減少となった。

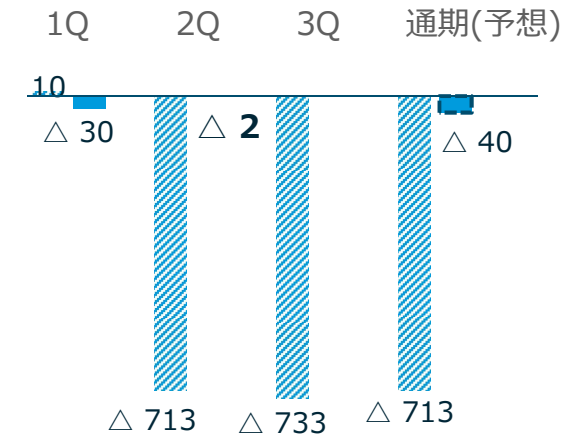
■ **売上高**：前年同期比 ▲62億円

手持ち工事が進捗した一方、前年度末に三井E&Sプラントエンジニアリング株式を売却した事により、前年同期に比べて減収となった。

営業利益



経常利益



■ **経常利益**：前年同期比 +711億円

インドネシアの石炭火力発電所土木建築工事において、今年度は追加で受注工事損失引当金を計上していない事から、前年同期に比べ大幅な改善となった。

■ 大型石炭火力発電所土木建築工事の状況

プロジェクト	地域	工事進捗率		契約納期
		20年度 1Q	20年度 2Q	
A	ベトナム	99.9%	100%	2020年度
B	インドネシア	約79%	約79%	2020年度
C	インドネシア	約96%	約98%	2021年度

- A 他社所掌の残工事は継続中だが、当社所掌工事は完了
- B 工事を再開し、現在鋭意遂行中
(引当金残高の推移:201Q 7 9 8 億円⇒202Q 7 4 6 億円)
- C 新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、想定の範囲にて進捗

■ インドネシア石炭火力発電所土木建築工事の状況

◆ プロジェクトBの状況

- 安全対策の目途がついたため、9月に当社所掌工事の再開を決定
- 現在、工事を遂行中
- 必要な資機材や現地ワーカーの確保に大きな問題は生じていない

新型コロナウイルス感染症による詳細な影響額を査定中

➡ 足元の状況を踏まえると、影響額は現状の引当金内に収まる見込み

(単位：億円)

	19年度 実績	20年度 2 Q 実績	20年度 見通し
受注高	9,968	3,128	5,500~ 7,500
売上高	7,865	3,242	6,300
営業利益	▲621	▲92	▲100
経常利益	▲605	▲79	▲70
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲862	▲41	0
フリーCF	469	122	▲400
有利子負債	1,739	1,695	1,900

※ 前回発表から変更はございません

※ 前提為替レート US\$ = 110円

※ US\$ 1円の円高が営業利益に与える影響⇒約1億円の改善

2020年度 セグメント別業績通期見通し

(単位：億円)

	受注高			売上高		
	前回見通し (2020/5/12)	今回見通し (2020/11/6)	増減	前回見通し (2020/5/12)	今回見通し (2020/11/6)	増減
船舶	900	900	0	900	900	0
海洋 開発	2,000～ 4,000	2,000～ 4,000	0	2,800	2,800	0
機械	1,800	1,800	0	1,700	1,700	0
エンジニア リング	200	200	0	300	300	0
その他	600	600	0	600	600	0
合計	5,500～ 7,500	5,500～ 7,500	0	6,300	6,300	0

※ 前回見通しから、変更はございません

2020年度 セグメント別業績通期見通し

(単位：億円)

	営業利益			経常利益		
	前回見通し (2020/5/12)	今回見通し (2020/11/6)	増減	前回見通し (2020/5/12)	今回見通し (2020/11/6)	増減
船舶	▲10	▲20	▲10	0	▲10	▲10
海洋 開発	▲200	▲170	+30	▲130	▲110	+20
機械	100	90	▲10	100	90	▲10
エンジニア リング	▲10	▲10	0	▲40	▲40	0
その他	20	10	▲10	0	0	0
合計	▲100	▲100	0	▲70	▲70	0

(単位：億円)

	19年度 2Q実績	2019年度 実績	20年度 2Q実績	20年度 見通し
設備投資	68	156	53	186
減価償却費	79	154	63	—
研究開発費	18	35	11	38
連結従業員数	14,050人	13,408人	13,644人	—

新造船受注内訳 (三井E&S造船)

(隻)

	受注 (累計)	引渡 (累計)	受注残
一般商船	0	6	5
艦船・官公庁船	1	1	7
合計	1	7	12

船用ディーゼル機関 (三井E&Sマシナリー)

	19年度 2Q累計		20年度 2Q累計		20年度予想	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注	90	169	68	124	—	—
売上	113	221	76	167	—	—
受注残	111	210	89	202	—	—
生産実績	104	196	77	183	165	375



MITSUMI E&S

社会に人に信頼されるものづくり企業であり続けます

To continue working as a company trusted by society and individual through products and services we offer

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性があります。